

「エブリフード」に社名変更

給食事業の日本ゼネラルフード

給食サービス事業のNGFホールディングス（HD、本社名古屋市中区、杉浦卓社長）は、社名を1日付で「EVERY HOLDINGS（エブリホールディングス）」に、傘下の中核会社・日本ゼネラルフードを「EVERY FOOD（エブリフード）」へ、それぞれ変更する。来年2月で創業60年目を迎えることから、「第二の創業期」に位置付ける。社名変更に伴い、中核会社の食品流通事業を会社分割で独立。多くの食材の調理を集中的に行う「セントラルキッチン事業」など、新たな事業も展開していく方針だ。（小島圭司）

社名変更に伴い、1日付で組織変更を実施する。食品流通センターを運営する、旧社名・日本ゼネラルフードの食品流通事業本部



新社名を披露する杉浦社長、マスコットキャラクターのペンギンもデザインを変更した

給食メニューの充実などに力を入れる（イメージ）



（エブリフードプロダクツ）として独立させる。既存の食品流通・食品加工事業に加え、2027年に豊田市内に完成予定の食品流通センター「Yakusaセンター（仮称）」の運営を担う。同センターはセントラルキッチンも備え、給食事業のノウハウ「新調理法」を用いたセントラルキッチン事業も展開する。エブリHDの杉浦社長は「セントラルキッチンで調理した給食を、リヒート（再加熱）でおいしく提供できるサービスを、高齢者向け施設などに提供したい」と話す。

新社名のエブリHD、エブリフードは、社員有志でつくる全社横断のプロジェクトチーム「カルチャーデザイン委員会」が考案した。毎日の給食を通し、あらゆる会社や人を結び付けたい思いなどがある。杉浦社長は「創業者は米国のGM（ゼネラルモーターズ）のような存在を目指し、多くの人においしいを届けたい思いで（社名を）日本ゼネラルフードとした。創業の精神を受けつつ、多様化するお客さまのニーズに向きあい、サービスを提供していく」と力を込める。さらに、「視点や見方を変えればシステムや人材紹介なども給食に関連する周辺ビジネスになる。お客様の課題解決やサービス向上につながるソリューションサルティングに力を入れていきたい」と話している。

エブリHDは2018年に設立。エブリフードを中核に、給食やケータリングサービス、外食事業などを展開する。25年8月期の連結売上高は約540億円を見込む。

